

わびすけ

(撮影：村野敦子)



村野藤吾先生をしのぶ会・会報
創刊号(隔月発行) 2005年5月9日

発行責任者 熊井直人
(村野藤吾先生をしのぶ会・広報部会長)

編集責任者 伊藤真人
事務局 CORE 建築・都市設計事務所

P 151 0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2 37 7
サンビューハイツ神宮
© 03 3470 1607 / Fax.03 3479 6176

村野藤吾先生をしのぶ会の発足にあたって 村野藤吾先生の苦悩と野望

村野藤吾先生をしのぶ会・会長 建築家菊竹清訓

村野先生は日本建築の進むべき道を示されている。建築家の向うべき目標とは、『文化の構築』であって、これは一國存亡の問題であり、地域や民族にとつての重要な問題である。文化を失った国はやがて滅亡する。

文化の中軸には建築がある。建築が文化を見失えば、民族の心よりどころが無くなることを意味する。建築が如何に歴史的に大事にされてきたか。世界が建築の文化的重要性から、建築の保存について、考えはじめているのは当然である。ある地域では、遺産として修復をし、戦火で破壊された建築を復元するなど、文化的価値を次世代に残そうとする動きがこのことを証明している。建築が文化的に価値あるものとして目覚めてきていることは幸いである。

西欧では、過去を否定して新しい現代建築は生まれると考えた。日本では、建築は歴史の継承で存続することを前提としている。それは、建て替えのシス

テムによって歴史に文化のストックがつけられることを意識していた。伊勢の遷宮には、文化の伝承の一つの方法が示されている。日本建築はモジュールを生み、解体・組立ての可能な架構が考えられ、多様な変化が、取り入れられている。

二十一世紀に入って、新しい建築様式は人工材料の、鉄、ガラス、コンクリートで永久存続の建築をめざして進んでいる。この最中、日本の建築をどういう方向にむけるか。この難しい選択を、村野先生は作品で示された。

勝手な想像であるが、それが、村野先生の作品にちりばめられている。すばらしい感性、純正優美で、エレガントな道を示されている。商業主義、ポピュラリズム、マスコミへの迎合をさけた村野建築には、日本文化の未来が封じ込められている。

これを、ひも解き、新しい文化につないでいくことが、残された建築家の課題であり、また日本の建築家の使命ではないかと私は思う。

侘び助

村野 漾

“故人が生前にこよなく好んだ花”などと言えば、いささかキザな言い方になるかも知れぬが……。

「侘び助」とよばれる白椿は、どの椿よりも一足早く咲き始める。綾錦織りなした紅葉が終盤に近づいて、落葉と多少重なった秋色がきわめて微妙に、更に饒舌な色彩の変化をもてあまし気味な季節、「侘び助」の純白は、何か意表をついたようで、華やかである。

故人が、この季節、自邸に客人を迎え入れる時、この花の一回をどの部屋の何処に、どんな風に生けるかにかなりの時間をかけて腐心していた。

この花の咲く初冬に合わせて、人様をお招きしていたようにも思える、大変な茶人と一目おいていた「新建築社」の故吉岡保五郎氏を招く年一度の茶会も、故作家井上靖氏の来宅も、ま

さしくこの季節だった。そして又、自分の死も客体化して、あたかも演出したかのようになつた「侘び助」が咲き始める十一月末に定めていたのかも知れぬ。この花に合わせて、自邸の庭も家も整えていたようにうかがえた。身内の者の暴言かも知れぬが、故人の体内時計ならぬ「意匠時計」は、「侘び助」だけが知っていたのかも知れぬ。

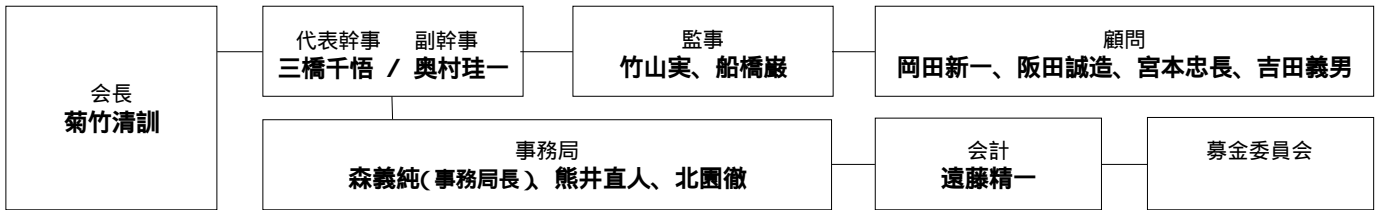
平成七年の震災は、村野邸も奪い去った。まるで巨象が前足を折るように、崩れた家屋の屋根と軒が、玄関先にあつた「侘び助」の老木を切り裂き、無惨になぎ倒した。一瞬の出来事だった。あとに無数の純白の花弁が地面に冬の長い時間散り敷かれていた。

(この一文は、「村野藤吾先生をしのぶ会」の発足に際して寄せられたものです。村野漾氏は平成十七年三月三日、ご逝去されました。享年七十歳でした。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。)



村野藤吾先生をしのぶ会・発会式より

村野藤吾先生をしのぶ会・役割分担および組織図(平成17年4月30日現在)



コアスタッフ&ワーキングスタッフ
 阿部幸正、粟野善治、印南正義、石堂威、石原秀一、伊藤真人、岩佐達雄、遠藤正勝、大友洋佑、大村晃一郎、大山尚男、岡田浪平、奥村珪一、川瀬俊二、木島暁、木下昭治、黒沼清、熊井直人、榊沢成明、栗生明、黒田俊明、後藤田茂樹、小林浩志、佐藤健治、佐藤友治、瀬尾武志、関邦則、高橋志保彦、竹山実、橋裕子、中川統夫、中谷正人、長谷川堯、波多野文夫、古市徹雄、星野仁、船橋巖、御江健二郎、村野朋子、柳瀬寛夫 [50音順]

【広報事業】 部会長 委員 熊井直人 / 中川統夫、御江健二郎(ポスター&HP担当)、伊藤真人(会報担当)、柳瀬寛夫	【式典事業】 部会長 副部会長 奥村珪一 / 黒田俊明
【展覧会事業】 部会長 高橋志保彦 副部会長 中谷正人(日本建築学会担当) 佐藤健治(NAIS担当)	NAIS 委員長 副委員長 岩佐達雄 / 黒沼清 委員 粟野善治、印南正義、大村晃一郎、岡田浪平、木下昭治、木島暁、瀬尾武志、橋裕子、柳瀬寛夫
	【講師・パネラー派遣事業】 部会長 長谷川堯 副部会長 委員 伊藤真人 / 北園徹

【シンポジウム事業】 部会長 副部会長 大友洋佑 / 阿部幸正(A班)、大山尚男(B班)、栗生明(C班:展覧会連動シンポジウム) 委員 A班: 榊沢成明、後藤田茂樹(部会長補佐) B班: 伊藤真人、近藤昇 C班: 川瀬俊二、遠藤正勝 D班(地方開催担当): 佐藤友治、関邦則、星野仁	【村野建築見学ツアー事業】 部会長 榊沢成明 委員 遠藤精一、大友洋佑、黒田俊明	【出版事業】 部会長 副部会長 石堂威 / 古市徹雄 委員 石原秀一、伊藤真人、栗生明、小林浩志、高橋志保彦、中谷正人、長谷川堯、波多野文夫
--	---	---

* コアスタッフ、ワーキングスタッフ参加募集中!

村野藤吾先生をしのぶ会・事業推進タイムテーブル(案)

	初年度(2005年)	2年度(2006年)	3年度(2007年)	4年度(2008年)	5年度(2009年)
式典	しのぶ会発足 (2004年12月2日)		展覧会 オープニングパーティ		しのぶ会解散打上
展覧会			展覧会		
シンポジウム	全班 第1回 (長野/8月下旬)	A班	C班	B班	D班
見学ツアー		第2回	第3回	第4回	第5回
出版			村野建築マップ		村野建築を支えた人たち
広報	キャンペーン・ポスター制作 会報発刊、HP開設				

口説きご

村野藤吾先生をしのぶ会・発
 会式および村野藤吾先生没二〇
 年記念祭

日時 平成16年12月2日
 会場 赤坂プリンスホテル・
 マガレットホール
 出席 70名

コアスタッフ会議 H16年12
 月22日、赤坂プリンス・ナポレオ
 ン / 幹事会 H17年1月28日、
 清水建設 / 第一回全体部会シン
 ポジウム部会 H17年2月24日、
 赤坂プリンス・ナポレオン
 ツアー事業部会 H17年3月
 3日、赤坂プリンス・ナポレオン
 広報部会 H17年3月23日、
 赤坂プリンス・ナポレオン
 シンポジウム部会・幹事会
 H17年3月28日、清水建設
 講師・パネラー派遣事業部会
 H17年4月12日、Gポイント
 出版事業部会 H17年4月20
 日、赤坂プリンス・ナポレオン
 シンポジウム部会・幹事会
 H17年4月27日、清水建設
 広報部会(第二回) H17年5月
 2日、赤坂プリンス・ナポレオン

顧問・コアスタッフ懇談会
 日時 平成17年4月27日
 会場 大隈会館・完之荘